

新宿ターミナル協議会（第4回） 議事録

1. 日時・場所

平成 28 年 9 月 21 日（水）15 時半～17 時，都庁第二本庁舎 31 階 特別会議室 27

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

- (1) 図解サインの配置について
- (2) 案内サインの整備手順について
- (3) 配布用マップの試験提供について
- (4) 高精度測位社会プロジェクトとの連携について
- (5) 今後の進め方について

4. 配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 資料 1－1 図解サインの配置に関する基本的な考え方（案）
- ・ 資料 1－2 図解サインの配置イメージ（案）
- ・ 資料 2－1 案内サインの整備手順イメージ（案）
- ・ 資料 2－2 案内サインの整備手順イメージ図（案）
- ・ 資料 3 配布用マップの試験提供の実施方針（案）
- ・ 資料 4－1 高精度測位社会プロジェクトとの連携体制
- ・ 資料 4－2 高精度測位社会プロジェクトについて
- ・ 資料 5 今後の進め方（案）

5. 議事録

（冒頭挨拶）

岸井教授（座長）

第四回の会合にご参集いただきまして、ありがとうございます。振り返りますと昨年の 6 月に第 1 回の会合をさせていただいてから、一気に基本ルールまで半年で、作っていただきました。案内サインについては、これからいよいよ実際の空間のどの場所に何を掲示していくかという個々に調整をする段階となっております。ここでやっていることは東京駅、池袋駅、渋谷駅など、他のターミナル駅でも参考にされていますし、他県からも注目を浴びています。これからが本番でございますので、是非これ

からもご協力をいただきまして、いい新宿駅ができますように、よろしく願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局より資料説明(資料1-1~2-2))

(意見交換)

岸井教授(座長)

議事の中の図解サインの配置と関連する案内サインの整備手順についてまで説明していただきました。整備時期の話が出ましたが、平成29年度中に整備を完了するというのでございます。

それでは今の全体に亘る考え方と整備の手順に関する考え方、何かご質問ご意見あればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

これについては、あまりに一般論なので、具体的にどこがどうやってやるかというのは既に調整してあるという理解でいいですかね。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)

あまりに一般論だからという、座長からの厳しいご指摘いただいたところでございますが、基本的に各管理者の方と調整をしつつ進めさせていただいております。そうした中では、各管理者さんはかなり積極的で、なるべく早い時期に整備をしたいというご意見を頂戴しているところでございまして、今日お示ししているような整備手順イメージになっております。

岸井教授(座長)

はい、それでは調整の対象でなかった方もいらっしゃるかと思いますが、是非ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

今日の図面はあくまでも参考ということですが、図の1-2の図解サインの配置イメージはかなり広域に記載されているじゃないですか。これはこの位置にしか作らないということの意味しているということでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)

これを今回出させていただきましたのは、冒頭に座長からもご発言いただきましたように、これから個別具体的に場所を決めていくというのが、非常に厳しい調整になっていくと思いますので、例えば、そこに一枚分のスペースを事務局として想定しているのか、あるいはターミナルマップとエリアマップの二枚分のスペースを想定しているのかということをお示しをしたかったということでございます。

岸井教授(座長)

ここに書いてないところに作ることは今のところは想定していないという理解でよろしいでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)

まずは今回の新宿ターミナル協議会として定めさせていただいた範囲の中で、整備を進めていくということでございまして、まずここを固めさせていただいた後に、改めて皆様方とご相談させていただきたいと思っております。例えば、さらに広域な部分で必要だというお声があった場合、どのような対応をさせていただくか、また別の機会に協議をさせていただければと思っております。

国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官

国土交通省街路課三浦でございます。ここに来る途中の新宿駅で、まさにこの案内図のようなパネルが分かりやすい位置にありまして、ふと目にしました。そういった既存のものは恐らく新宿駅に数多くあると思っておりますが、それらは全部一旦外して、この協議会で議論しているような、いわゆる統一版に置き換えていくというご理解でよろしいのでしょうか。あるいは、出来のいいものは残していくということを含めてご検討をされているのか、その点を確認したくお願いいたします。

都市基盤部交通企画課交通プロジェクト担当課長（事務局）

基本的には場所として多く確保することは難しいだろうということも想定してございますので、今あるものを付け替えさせていただくというようなことが一つ基本になるのかなとは思っています。ただし、特にこのターミナルマップにつきましては、結節空間の見やすい位置になればやはり十分な機能を果たしていくことができないと考えてございますので、そういった部分につきましては、既存のものを残すかどうか、それも個別に整理をさせていただく必要があると思っておりますけれども、改めてそれとは違う場所に設置をさせていただく必要がでてくる部分もあると想定してございます。

岸井教授（座長）

ロンドンの場合は、30面位外して10面位作ったと聞いています。恐らく外すのも結構なんじゃないでしょうか。しっかりしたものができれば、その前にあったものところを他のものに使えることになるでしょうからね。外すということが基本かなという気がします。

つまらないことですが、例えば、都庁とか、都の施設のところには何も置かないのでしょうか。

都市整備局交通政策担当部長（事務局）

産業労働局が都議会議事堂の近くに、デジタルサイネージを設置する等、都庁周りにもかなりそういう整備がされてきています。

岸井教授（座長）

都庁の周辺に同じようなエリアマップを掲示しなくても、少なくとも都庁にはエリアマップの紙版は置かれるのでしょうか。そういうことをサービスとしてやっていただいたほうが良いと思っております。

個別具体の場所の調整というのは、なかなか厳しい状況が恐らくこれから出てくると思うので、実際に各管理者の方と一緒に場所を見ながら、どこにつければ一番いい

のかということについては是非ご教授いただいて、原則としてこういった考え方を大事にして作っていただくということにしたいと思います。

それでは続いて、配布用マップの件について、ご説明をお願いします。

(事務局より資料説明(資料3))

岸井教授(座長)

11月から2月の期間に試験配布ということですが、これは何部くらい刷るのでしょいか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)

各管理者の方に1000部位ずつお渡しができるかと考えております。

岸井教授(座長)

はい、各管理者の方に1000部くらいずつお渡しをして、それを配布のうえ、アンケートを聴取するということですが、何かご意見あればいただきたいと思います。アンケートの内容だとか何かそういう点でも、是非こういうところも聞いてほしいというのがあれば、ご発言いただけますか。

赤瀬氏(専門アドバイザー)

赤瀬でございます。ちょっと質問を申し上げますが、マップ上に結節空間を表示しない方針であるというお示しでございますが、昨年度の新宿ターミナル協議会で結節空間の名称自体にはもう疑義はないところまで来ていると思います。範囲指定をするのは別として、ひとつの考え方として、いずれにせよ来年度以降整備が進むわけですから、マップの試験提供で結節空間を利用者の方にお示しをして、あらかじめPRするとかですね、そのなかで例えば、ここは東口広場と言われてもピンとこないなという声が出てくるとかですね、本当に表示しないほうがいいのかどうかご検討いただければと思います。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)

ありがとうございます。

確かに、結節空間名称に対する利用者のご意見をいただけることは今後の具体的な検討、調整を進めるうえで、さらによりよいものになっていく手立てになると思いますので今いただいたご意見を踏まえ、改めて検討させていただければと思います。

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長

東京国道の石川でございます。配布用のマップに限った話ではないのですが、我々も同じ悩みを抱えておりまして、例えば、こういう案内に対し英語圏の外国人の方がどう思っているか、アジア圏の外国人の方がどう思っているか、捉え方に男女差があるだとか、まだ体系的に整理をすることがなかなかできてなくて、これは配布用マップのインタビュー調査ですけれども、全体に亘ってももし可能であればそのあたりを

検討の視点として入れていただけるといいのかなと思います。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

ご意見をいただきましてありがとうございます。昨年度実施いたしました各結節空間に関するアンケートの中でも、サンプル数は全体の10%程度でしたけれども、外国人旅行者の方にご意見を伺っているところでございます。どこまで、体系的に整理ができるまでのサンプル数を得られるかというのはまた検討させていただきたいと思っておりますけれども、外国人旅行者の方にもご意見をいただけるような工夫はさせていただきたいと思っております。

岸井教授（座長）

はい、英語でアンケートやるのでしょうか。

これは2月で一旦配布をやめてしまうのでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

まず、アンケートを取る目的のものを一旦、各事業者の方に1000部お渡し致しますが、お話を伺っていると1000部位はあっという間になくなってしまいうというご意見もいただいております。アンケート目的の配布についてはそこで一旦打ち切る訳ですけれども、その後また各事業者の方と調整をさせていただきまして、引き続き、継続的に配布したいとようなお声があるようであれば、その時点でまた調整をさせていただければと思っております。

岸井教授（座長）

はい。確かに1000部位あっという間に消えちゃうような気がしますね。各管理者の方、特にご意見ございますか。

ではよろしければこれはアンケートをしながらブラッシュアップをしていただくということにしたいと思っております。それでは続いて4番目の高精度社会プロジェクトとの連携について、ご説明をお願いします。

（事務局及び国土交通省より資料説明（資料4-1～4-2））

岸井教授（座長）

はい、ありがとうございました。それではただ今の高精度測位社会プロジェクトについてご質問、ご意見をいただきたいと思います。最初に全体のスキームですけれども、総務省等が他の駅で同様の実験をやっていますが、それらとはどう関係するのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

渋谷駅でありますとか、大阪などにおきましても屋内のナビゲーションに関する取組というものは進められていると承知しております。そういった他の地域におけるプロジェクトとも情報交換を行いながら進めてまいりまして、将来的には全国的に主要

なターミナル駅であるとか、そういったところで民間によるサービスが提供されているという状態を目指して、連携して進めてまいりたいと考えています。

岸井教授（座長）

他の省庁さんも色々やってらっしゃると思いますのでよく整理しなくてはいけないでしょう。それから、社会実験ということですが、ビーコンは設置したらずっとそのままでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

少なくとも2020年までは置かせていただけるようにということで各地権者様と現在は調整しているところでございます。今後のサービスの展開によりまして、それ以降も置いていただけるように管理の仕方を含めて検討してまいりたいと思います。

岸井教授（座長）

それから、アプリは国がお作りになるということですが、各事業者さんの要望もいただいたうえで、総合的なターミナルのアプリとして使えるようにするということがすよね。

国土交通省国土政策局国土情報課

高精度測位社会プロジェクトの事務局で作成するアプリは、こういうサービスが提供できますということをお示しするために作るものがございます。目指すところは民間の地図関係、位置情報関係事業者さんのサービスに活用していただくことです。今年度のサービス実証におきましても、こうした事業者さんに参加していただいて進めていくこととしております。

岸井教授（座長）

高精度測位社会プロジェクトの事務局でお作りになるアプリそのものはどんなものだとイメージすればいいでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

ナビゲーションのアプリでございます。ただ、民間のようにあまり作りこむことはできませんので、自分の位置と目的地を入れて、経路を検索するという機能をお示しするというものを想定しております。

岸井教授（座長）

今のお話からすると、他のサービス事業者でやってらっしゃるものとはどっかで接合するってことでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

サービス事業者に地図と測位環境を提供しまして、そこにサービスを加えて提供していただくということを考えております。

岸井教授（座長）

常に空間情報を提供するって感じですか。そうすると国でお作りになる実験のアプリは最終的に消えてしまうということでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

実証実験のためのアプリであり、国でいつまでも改良を加えていく、運営をしていくというようなことは考えておりません。

岸井教授（座長）

もう既に各鉄道事業者もいろんなアプリを開発されているように思いますが、ご質問ご意見あればいただきたいと思います。

今回作成した地図や測位環境のデータは各鉄道事業者さんにも空間情報としてもご提供されるわけですか。

国土交通省国土政策局国土情報課

まだ地権者との調整は終わってはいないのですが、出来上がった地図と測位環境につきましては、オープンデータとして公開していくことを想定しています。

岸井教授（座長）

そうすると、サービス事業者の方たちではなく、鉄道関係の事業者の方が独自にそのデータを使ってアプリを作成するというのはそれはそれでよろしいのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

そうですね。オープンにしてどなたでも使っていただけるということを目指しております。

岸井教授（座長）

でもそれはなんか各社バラバラに作っても、無駄ですよ。みんながそれぞれ自分で努力して作って結果的には同じものがでてくるっていうのは無駄な気がします。

ご質問でもご意見でも結構でございますが、何かございますか。既に各事業者さんとは話はされているのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

お話させていただいております。実証実験で作成する地図とか測位環境をオープンにするということもありますけれども、併せて地図の仕様といったものを国土地理院のほうで検討しております。測位環境の整備に関しても、仕様を国土地理院のほうで、作成しております。それが出来るのが来年度になります。そういったものを公開していくことでそれに沿った地図とか測位環境といったものをターミナル駅や地下街等におきまして作っていただくというようなことができればと考えております。バラバラに作って無駄になるというのではなくて、同じ仕様に基づいてみんなで使えるようなものがそれぞれできていけばということをお願いしております。

赤瀬氏（専門アドバイザー）

ちょっと質問がございますが、今東京都がこの会議を進めておられる新宿ターミナルの検討対象は各鉄道事業者の改札の中は一旦除外して考えましよう、皆さんが共通に、いわば無料で移動できる範囲といいましようか、そういうことを念頭にこの協議会で議論しているわけでございますけれども、今の位置情報のシステムとなります

と、個別のユーザーが、これは使い勝手いいとか、ここをもっとこうしてほしいなどの話になってくると思うのですが、ターミナル駅、鉄道駅の移動をイメージしますと、改札の内か外かというのは個人のユーザー側からすればあんまり問題ではなく、改札の中の情報も連続的に改札の外と一体的な位置情報の電子的な情報化ってものの整備が進まないと効果的ではないんじゃないかなって気がします。国土政策局のお考えは改札の中も一緒に電子地図をお作りになり、そのサービスが提供されていくと、こういうふうにしてよろしいのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

国土政策局の取組におきましても、改札の外、また空港におきましても管理区域の外等の無料で入れる公共的な空間を対象としております。改札の中につきましては鉄道事業者のお考えもあるかと思いますのでそのナビゲーションにつきましては、そちらでご検討いただくのではないかと考えております。

赤瀬氏（専門アドバイザー）

位置情報として言いますと、空港はセキュリティの問題があるから、内か外というのはわかりますが、鉄道駅で改札の中に行ったときはあまり役に立たなくて、改札外に出てからまた次の改札乗り換えて中に入ったら、また途切れてしまうというのは現実的に効果的でないような気がします。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

今回、新宿ターミナル協議会の取組として高精度測位社会プロジェクトと連携してやっていこうと考えさせていただいたのはやはり鉄道駅の乗り換え、改札の外の空間に注目して取組をさせていただくというなかで整理させていただいているところでございます。今の赤瀬先生のご指摘、確かに根幹的なところだとは思いますが、今回の実証実験につきましては複雑なターミナルの中で果たしてこの高精度測位社会プロジェクトで取り組んでいращやる地下のナビゲーションといったものが、円滑に機能していくかということを実証実験の中で解き明かしていくものであると理解をさせていただいているところでございます。

京王地下駐車場株式会社取締役事業部長

京王地下駐車場でございます。ご説明ありがとうございました。このナビゲーションの部分の最終的には民間に開放していくというところはこれまでの説明で聞いておりますが、基本的に国交省様がその基本部分だけを提供し、その後それをどう使うかは民間のサービス事業者というお話については、私の認識が今まで甘かったのかもしれない。我々は国交省さんがアプリを提供するというので、かなりの部分を提供しておりますが、もし、それを彼らが有償サービスとして利用するという話になると、ちょっと違うかな、という気がします。基本的には彼らが提供するサービスが無償で提供されることが前提でのオープン情報ということで認識はよろしいのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

その件につきましては、これまでの説明が足りなかったところがありますけれども、今後調整させていただければと思います。

岸井教授（座長）

有償サービスの場合も有り得るってことですかね。サービス事業者とのお話し合いはどこまで進んでいるのでしょうか。そちら側は使ってもらわなきゃいけないでしょうし、当然、表現はそれぞれ持ってらっしゃるシステムの表現に変わるわけですよね。

そうすると新宿ターミナル協議会が作っている地図とは恐らく表現的に違ってくると思いますが、そういう理解でよろしいんですか。

国土交通省国土政策局国土情報課

今年度のサービス事業者実証につきましては、今年度の実証実験において使っていたかということ、また、有償のサービスには使わないということでお話をしております。で、来年度以降オープンデータとしていくにあたってはまた別の話として地権者の皆様と調整が必要であると考えているところでございます。

岸井教授（座長）

とりあえずはできるようにするっていうことのチャレンジであって、これが実際にできたあと誰がどういうふうにご利用するか等については少し議論が続くという感じですかね。

他にはよろしいでしょうか。これもやってみないとわからないところがあるので少しずつやりながら考えるってことでしょうか。実際にアプリができるのはいつ頃でしょうか。先程のスケジュール感でいうと年度末ギリギリくらいになりますか。

国土交通省国土政策局国土情報課

新宿以外のアプリケーションの公開は11月を目指しております。新宿は12月になる可能性がございます。

岸井教授（座長）

年末ですか。早いですね。それは逆にそういうものをつくってアンケートを同時にやられるのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

何回か使うとアプリケーションを開いたときにアンケートが出てくるとか、アンケートの項目があってそこを選ぶとか、そういった形で一般のユーザーの方にもアンケートにお答えしていただきたいと考えております。

岸井教授（座長）

また個別に何かありましたら、直接色々ご相談していただきたいと思います。

もうひとつ最後の議題として今後の進め方についてというのがございますので、ご説明をお願いします。

（事務局より資料説明（資料5））

岸井教授（事務局）

これからの進め方に関して、とりあえずこれは今年度分が書いてありますが、この先はどうなりますか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長

この先、今年度整備計画をとりまとめたものを先程お示ししたような整備手順に基づきまして、具体的な整備に入っていくということでございます。来年の整備のキックオフのところでまた協議会を開催させていただいて、整備に入っていくというような流れを想定しています。

岸井教授（事務局）

それでは今の今後の進め方に関して、ご質問ご意見があればいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

サインに関して図解サインのほうはご説明がありましたが、同定サインと指示サインはどうされるんですか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

まず同定サインでございますけれども、同定サインはこれから個別の調整をさせていただく中で、結節空間の見やすいところに置かせていただくということを基本に調整をしております。それから指示サインですけれども、今ある位置に新しいサインを付け替えていくということを基本に調整させていただきたいと思っております。ただし、案内サインが重複していたりする部分もございますので、撤去をお願いする部分ですとか、あるいは追加をお願いする部分ですとか、そういったこともあるかと思えますけれども、基本的には今あるものの取替ということの中で進めていくということをご想定しています。

赤瀬氏（専門アドバイザー）

今のご説明ですが、この資料5の案内サインの改善のところに書いてある「図解サインの配置に関する基本的な考え方」というのが図解サインの議論だったと思えますが、その同じ行に書いてある「各サインの表示内容、配置に関する具体案の提示・調整」の各サインというのは図解サインも同定サインも指示サインも含んでいる、そういう意味でいいのでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

ご指摘の通りでございます。ここに記載されております各サインはすべてのサインそれぞれのことでございます。

岸井教授（座長）

今年度中に整備計画の全体像が見えるという状況になるということでしょうかね。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

そういうことです。どこに何を付け、どういうデザインのものが並んでいくか等と

いった全体が見えるというところでございます。

岸井教授（座長）

サインに関してはこういう進め方でいきたいとことでございますが、ご意見ご質問いかがでしょうか。

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長

東京国道でございます。この場で個別の話をしていいのかあれですけども、案内サインの改善の話につきましては、私どもは国道20号だとか、我々が管理しておりますバスタ新宿でも積極的に取り組んでいきたいというふうに思っております。バスタ新宿の開業にあたりまして、各関係者の方々には開業の直前に色々な調整をさせていただきましてありがとうございます。ただ、バスタ新宿に向かっていくときにまだ案内がわからないとかいうようなご意見が実は我々のほうに結構寄せられているところがございます。今年度、案内の整備計画を作っていくなかで、我々に寄せられた意見もできれば皆様と共有、調整をさせていただきながら一緒になってその整備計画全体をつくっていければなと思っております。皆様、色々なご事情があると思いますが、実際にそういう意見が来ているのも現実でございますので、こういうチャンスにもう一度、事務局と連携を取りながら個別の調整等をさせていただければと思っておりますので、一言ちょっと申し上げさせていただきました。

岸井教授（座長）

はい、是非よろしく願いいたしたいと思えます。バスタ新宿はかなりの方が使ってもらっていますもんね。

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長

やはり西口、東口から来るときに分かりづらいというご意見もいただいております。皆様と共有しながら取り組ませていただければと思っております。

岸井教授（座長）

他にはいかがでしょうか。今日はサインの話が中心でしたが、他のバリアフリーですとか、サービス向上に関しても何かありましたらご発言いただきたいと思います。

先程の高精度測位社会プロジェクトで作る空間情報というのは、その下にあるICTを活用した多言語対応策っていうのはリンクするのでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

高精度測位社会プロジェクトのほうでも屋内外でのナビゲーションということだけではなくて、そこで提供されるサービスというのが多言語化されるということになっておりますので、それも含めてとりまとめをさせていただきたいというふうに思っております。

また、これはまだ事務局で検討段階でありますけれども、今般、例えば案内サインをいろんな言語に翻訳するような、アプリケーションやそういうシステムを開発されていたりしますので、そういったものが、新宿駅という雑踏の中でどれだけ提供でき

るのかということについても少し議論をさせていただいて、ご紹介できればなというふうに思っているところでございます。

岸井教授（座長）

高精度測位社会プロジェクトにおいては多言語化の議論もするのでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課

多言語化対応したいところですが、今年度はひとまず英語対応ということで考えております。英語表記につきましては新宿ターミナル協議会さんの基本ルールに書いてある表記にならってまいりたいと思います。

岸井教授（座長）

多言語どこまでやるかって話がありますが、誰かがちゃんと整理してくれるといいなど、是非そういう専門家のみなさんの知恵を集めてやらないと、個々バラバラにやっているということではなく、統一的にやってもらったほうが本当はいいんでしょうけどね。東京都がおやりになるのか、国が整理されたものがあればそれでいいでしょうけど、どこかでリードをしていただけるといいですけどね。

どのくらいの言語までいくのでしょうかね、中国語、韓国語までは多少この間もあったけど、この先も対応されるのでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

新宿ターミナル協議会の中でどこまで多言語に踏み込むかということについてはなかなかお答えすることが難しい部分がありますけれども、新宿ターミナル協議会のサイン分科会がオリンピック・パラリンピック大会の多言語対応協議会の分科会を兼ねているということになっております。そちらで示されておりますのが、日本語・英語を基本とするようなこととございますので、そこが基本になるのかなと思います。これまでも新宿ターミナル協議会の中でもご議論させていただいてきましたように、配布用のマップにつきましては、韓国語・中国語にも対応したものを調整していくということまでは確認させていただいておまして、ICTをどこまでの範囲まで広げて検討していくかにつきましてはもう少し検討させていただければと思っております。

岸井教授（座長）

英語が書いてあればわかる人が多いとなれば、それでもいいかもしれませんが、パリかなんかの地下鉄では、違う言語の人達にわかるようなものが書いてあるという事例を聞いたことがあります。

どこまで我々がサービスするのかですよね。その辺もこれからの考えどころでしょう。観光全体を考えると、当然中国語、韓国語と、その先はどうなるのかという話になると思います。

他にはいかがでしょうか。全体を見渡してでも、どこでも結構ですけども、何かご質問ご意見があればいただきますが、どうでしょうか。

東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長

東京メトロでございます。今の資料5の一番下を見ると、案内所等の整備と書いてありますが、これはこの協議会として各ポイントに案内所を整備していくということでしょうか。結節空間のところに案内所があり、アナログで案内してくれると便利かなと思っているのですが、その辺の考え方を伺いたしたいと思います。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）

基本ルールの中で、今後、案内所を積極的に整備するということを明示させていただいておまして、例えば新宿区さんで整備していこうとされているところですか、そういったところを当面の目標としております。したがって、そういった部分を着実に整備していただくということをイメージして書かせていただいております。

岸井先生（座長）

羽田空港見に行ったときも、結局いろんなサインも使う、ICTも使うけど、やっぱり人が対応しなきゃならないことがあるって話があって、少なくともパラリンピックの時にはそういう検討が入ってくる可能性もありますよね。

他にはよろしいでしょうか。それぞれのお立場で困ること、あるいは、ここで言いたいことを東京都が調整をしながら全体像のバランスをとってやっていくということでこの協議会を進めていきたいと思っていますから、是非今後とも事務局に対し、それぞれの立場からどんどご発言いただいて、バランスを取りながら、またお返しをして社内のほうで納得していただくということでよろしくお願ひしたいと思います。特に何もなければ一旦事務局にお返しをしたいと思っています。

都市整備局交通政策担当部長（事務局）

ありがとうございました。ただ今大変熱心な議論をいただきまして、とりわけ多言語の話ですとか、マップの話、色々ご議論がありました。まず、案内サインについては今座長からご発言いただきましたように、個々にこれから調整をしてみたいです。是非、活発なご議論をいただいて、最後の整備計画に向けてしっかりとまとめていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひをいたします。また、地下のナビゲーションの話もございましたが、できる限り様々なアンケートで得た情報というのは共有化をして、よりいいものにしていきたいと考えております。また、多言語の話につきましても、オリンピックの話もございました。多言語化に関しましても色々な議論が示されておりますので、東京都のほうでもそうした情報を整理して、よりよいものとしてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願ひを致します。

皆様方、本日は大変ご多中のところにも関わらず、出席いただきましてありがとうございました。それではこれをもちまして本日の第4回新宿ターミナル協議会を終了させていただきます。

以上

新宿ターミナル協議会（第4回）

出席者名簿

	役職名	出欠
座長	岸井隆幸 日本大学大学院理工学研究科教授	出席
専門アドバイザー	赤瀬達三 株式会社黎デザイン総合計画研究所代表取締役	出席
委員	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長	出席
委員	東京都都市整備局都市基盤部長	出席
委員	東京都都市整備局交通政策担当部長	出席
委員	東京都建設局道路保全担当部長	出席
委員	東京都交通局企画担当部長	代理
委員	新宿区都市計画部長	代理
委員	新宿区みどり土木部長	代理
委員	東日本旅客鉄道株式会社東京支社総務部企画部長	出席
委員	東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長	出席
委員	西武鉄道株式会社鉄道本部計画管理部長	代理
委員	京王電鉄株式会社鉄道営業部長	出席
委員	小田急電鉄株式会社交通企画サービス事業本部執行役員交通企画部長	代理
委員	株式会社ルミネ開発企画部長	出席
委員	新宿サブナード株式会社総務部開発推進担当部長	出席
委員	京王地下駐車場株式会社取締役事業部長	出席
委員	一般社団法人東京バス協会理事長	出席
委員	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会専務理事	欠席
委員	一般社団法人東京個人タクシー協会副会長	欠席
委員	公益財団法人東京タクシーセンター指導部長	代理
オブザーバー	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課駅機能高度化推進室長	出席
オブザーバー	国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官	出席